

第 21 回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「聞取り通訳試験」問題

第 1 問「病院の整形外科で」

山本さん、今日は退院ですね。サッカーの練習で右足を骨折して、救急車でこの病院にいらしたのですね。手術後のリハビリも大変だったと思いますが、よく頑張りましたね。

毎日の訓練は予定時間を過ぎても続けていらしたそうで、PTも看護師たちも感心していましたよ。昨日レントゲン検査をしましたが、その結果、骨は完全に治ってますので、安心して退院してください。

今日のご家族の方がみえられますね。ご家族も安心なさるでしょう。家での生活も心配ないので普通に生活していただいて結構です。ただ、サッカーの練習は慎重に始めてください。

体力には自信をお持ちのようですが、入院生活で筋力も落ちていますし、まず日常生活に慣れてください。仕事もそうですが、通勤にも体力が必要です。睡眠時間をしっかりとって、無理しないようにしてくださいね。

では、次は2週間後くらいにいらして診せてください。退院の手続きについては看護師に聞いてください。ではお大事に。

第 2 問「寄宿舍」

私の同僚に聴覚障害者がいる。彼は、小さい頃、耳が聞こえなくても近所の子供たちと普通に遊んでいたが、6歳になると彼だけが遠くにあるろう学校に入るようになったそうだ。

何もわからないまま母親にろう学校へ連れていかれて、寄宿舍に荷物を運ぶと、母親がいなくなってしまう、寂しくて泣いたことを覚えているという。

寄宿舍で先輩たちは手話で話していて、彼は最初何もわからなかったそうだが、すぐに手話を覚えて楽しい生活になったという。トイレに幽霊が出るなどと先輩に脅されたり、同級生と一緒にいたずらをしたり、消灯後に後輩を引き連れて抜け出したりと、いろいろあったようだ。

でも、寮母や先輩から学び、後輩の面倒を見て、社会生活のルールを身に付けられたのは、親元から離れて寄宿舍で学んだ良い面だったという。

彼は今私と同じ会社で仕事をしているが、健聴者ばかりで手話が通じなくても、筆談をしたり、みんなに簡単な手話を教えたりと、前向きな姿勢に頭が下がる。それも寄宿舍での集団生活で鍛えられた彼のバイタリティなのだろうと思う。

第 21 回 手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験） 「読取り通訳試験」問題（要約文）

第 1 問「外から見てわかりにくい障害」

要約文

私には兄がいます。兄は耳が聞こえます。小学部 5 年の時、夏休みに、高校 2 年の兄とプールへ行った時のことです。プールに行けることが嬉しくて、補聴器をつけるのを忘れて家を出てしまいました。まあいいやとそのまま、兄と私は、それぞれ自転車に乗って行きました。プールに行く途中には、けっこうきつい坂があって、私は登るのに必死でした。兄は自転車で私の前を走っていました。道の端に駐車している車があったので、それを避けて道の真ん中に私が寄ったときです。兄が突然振り返って手で合図してくれたとたんに、後ろから大きな車が来て、兄の自転車のそばに急ブレーキで止まり、その車を運転していた人が怖い顔で、何かどなっていました。私はさっぱりわかりませんでした。あとで兄に聞いたら、車がクラクションを鳴らしたけど、私が気づかなかったのですね。兄は「この子は、耳が聞こえません。すみません。」と謝ったけど、その人は、「耳が悪いんなら、おまえが後ろについて走れ。注意しろ。」とどなったそうです。けれど、前でも後ろでも同じだと思うのです。

もしも、後ろから声をかけたり、自転車のベルや車のクラクションを鳴らしたりした時に振り返らない人がいたら、「耳が聞こえないのかもしれない。」と思って欲しいです。

第 2 問「仲間の励まし」

要約文

毎年 4 月に開催される「トライアスロン大会」に、今年も参加しました。コースは、スイム 3 キロ、バイク 155 キロ、ラン 42.195 キロで、朝 8 時にスタートし、制限時間 14 時間の過酷なレースです。場所は、エメラルドビーチ。1500 名が一斉に泳ぎだします。ぶつかり合い蹴飛ばし合いや潮の流れもあったので、予想以上に時間がかかってしまいました。バイクは自信があったのですが、上り坂で向かい風が強く、閉口しました。ランに入り、途中で腰の痛みがひどくなり、歩くこともあり、どんどん追い越され、あきらめかけました。その時、折り返して戻ってきた聞こえない仲間たちの顔と「頑張れ～。ゴールで待っているよ。」と言われたことばに勇気づけられ、「わかった。頑張る。」と最後まであきらめずに走り続けました。

制限時間ぎりぎりでしたが、ふらふらしながらもゴールできて、本当に嬉しく、涙があふれてきました。